

CELLISSIMO

<http://kobe-cello.com>

もう2年が経とうとしている。だけど私たちは、忘れない。阪神かそうであるように



「中越地震復興支援チャリティーコンサート」

- 日程：2006年10月7日(土)、8日(日)
2日間で3回のコンサートを開催します。
- 集合時刻：10月7日(土) 13:00 絶対時間厳守
- 集合場所：上越新幹線「長岡駅」東口
ニューオータニ前 越後交通バス乗り場に集合
- 活動内容：次頁記載のとおり
- 参加資格：3回すべてのコンサートに参加できる方。
公式練習は予定していません。
- 参加申込：参加申込書に必要事項をご記入の上、9月10日(日)までにファックスでお申し込みください。参加申込書はNPO事務局までお電話、またはFaxでご請求ください。Tel.078-805-2001 Fax.078-805-2008
- 参加費：NPO会員@2,000円、非会員@4,000円
同封の郵便振替用紙にて9月15日(金)までにお支払いください。
- 宿泊：参加申込書に必要事項をご記入の上、お申し込みください。
長岡駅前の「ホテルα1」(アルファワン)
1泊朝食付き6,000円です。
参加費と同時に振り込んでください。
- 打ち上げ：2006年10月7日(土) 20:00より@3,000円
ホテル近くの会場で開催予定です。
参加お申し込みの方には、後日楽譜送付させていただきます時に、ご出欠をお尋ねします。
- お問い合わせ：
NPO国際チェロアンサンブル協会事務局
tel.078-805-2001 松本、谷水

2004年10月23日17時56分に発生した「中越地震」により、今なお7000人の人々が仮設住宅での生活を余儀なくされています。そんな中で最も被害のひどかった山古志村の学校が再開されたり、村民が少しずつ元の地に復帰というニュースが伝えられたりしています。とはいえ、ほとんどが高齢者の村の復興は並大抵ではありません。

阪神淡路大震災の復興支援が契機で生まれた「1000人のチェロ」は2001年には北海道有珠山噴火で被害を受けた洞爺湖温泉への復興支援チャリティーコンサートを現地で開催しました。今回も「中越地震」の被災者の方々の少しでも勇気づけることができれば、との一念で全国のチェリストに呼びかけています。「私がチェロを弾くことで少しでも被災地の方々の役に立てるものなら…」という篤志ある皆様の参加をお待ち申し上げます。

左記要領でコンサートを実施します。参加希望者は、参加申し込み用紙に必要事項をご記入の上、9月10日までにファックスでお申し込みください。
2006年7月15日
NPO国際チェロアンサンブル協会



1000人のチェロ 中越地震復興支援 チャリティーコンサートへのお誘い



CELLISSIMO
GRANDIOSO

Vol. 7

元氣げに チエロの響きで 新潟のみんなを

曲目 (予定)

- ・日本歌曲のメドレー
- ・チエロのためのレクイエム
- ・レジオーゾ
- ・パッサカリア
- ・ビートルズメロディ

(イエスタデイ、オブラディ・オブラダ)

楽譜は9月初旬に参加申込者へ直送します。

現地の山古志村「村民体育館」にて一度練習します。

10月7日(土) 14:30~16:30

参加する方のご希望パートを原則としますが、かたよりなどがある場合は、NPOで決定します。

指揮

田久保 裕一

コンサート マスター

佐久間 豊春

日程

10月7日 土
8日 日

「全国の皆様で新潟に向けてチャリティーをやりませんか？」

大分軍団では、6月に2回チャリティー演奏を行いました。買い物の途中で足を止めてくださった方からも暖かい拍手とお志80,392円をいただくことができました。8月も26日11:30~、13:30~、16:00~、27日12:00~に、各1時間のプログラムで行ないます。各地でのチャリティーにまだ参加していらっしゃる方、よろしければ大分に参加なさいませんか？ おいしいお酒と肴を準備してお待ちしています(いったい演奏と飲み会とどっちがメインなんでしょうか?)。安いホテルもご案内します。また、ステージの参加は1回限りでもかまいません。数本であればチェロもご用意できます。詳しくは白沢(携帯090-8299-9011)、馬場(携帯090-9562-8358)までお問い合わせください。皆様の参加をお待ちしています。



- 7日 13:00 上越新幹線「長岡駅」東口 ニューオータニ前
越後交通バス乗り場に集合、バスで山古志村に移動
14:30 山古志村「村民体育館」で練習
17:00 同体育館で第1回目コンサート
19:30 ホテル到着
20:00 打ち上げ
- 8日 09:30 ホテル出発
10:30 川口町 田麦山小学校着
11:00 同校にて第2回目コンサート
12:30 移動(車内昼食)
13:00 小地谷市立東山小学校着
13:30 同校にて第3回目コンサート
15:00 移動
16:00 長岡駅にて解散

打ち上げ

初日の10月7日(土) 20:00
よりホテル近くのビヤレストラン「バーデン」にて開催を予定しています。会費はお一人様3,000円です。

information board

掲 示 板

ゲリingasがやってきた!

『熱烈歓迎ゲリingas様』

上田聖子

昨年神戸のICCに参加された方は、ゲリingasのあの豪演はいまだ記憶に残っていることと思います。私もその一人で、あの日以来、ゲリingasさんは私の神様です。シエンテロバスの作品の素晴らしさはもちろんですが、それを完璧な美の世界にして私たちに見せてくれた彼の音楽の力に深く深く感動しました。と同時に果敢と高く高いところにいる彼の存在に畏敬の念も抱きました。

ところで唐突ですが、人はその人生の中で「夢が叶う」のは何回まで許されるのでしょうか? と誰かに問いかけない怖くなるくらい、「あの」ゲリingasさんにお会いできるという幸運に恵まれたお話です。

幸運その1

昨年の暮れのことで、福岡の地元の新聞にこんな記事が載りました。「ゲリingasさん 九州交響楽団の首席客演指揮者に就任」きっかけはその年の6月の九響との共演でした。ハイドンの1番のコンチェルトの弾き振りとメンデルスゾーンの交響曲「イタリア」の指揮で、生き生きと躍動感に満ちてして集中力のある演奏がとて印象に残っています。オーケストラとしても感じるどころがあったと見えて、客演指揮者の話を打診したのでしょう。そのニュースを聞いた私は狂喜乱舞! 道行く人々にまで「私たちの町のオーケストラにゲリingasさんが来てくれるんですよ! あなた幸せ者ですね!」と、祝福したくなるくらい目の前がカラ色でした。

幸運その2

「手紙を書きなさいよ」とおっしゃってくださったのは、我が000チェロ事務局長の松本さんでした。ゲリingasの客演指揮者就任に、興奮気味に話す私に向かって「地元のチェリストで歓迎会を開いたらいいじゃないか」と。普通は神様との間に立ってくださる人はいませんよね。(けれど、チェロ界にはそういう方がいらっしゃるのです。半信半疑だったとしても許してください。自筆の手紙を読んでいただけると、この「幸運その2」だけじゃなく十分幸せだと思っていたのですから。そう言いながらも、桜の柄の便箋にしっかりと日本語で「ぜひ、歓迎会においでください」としたためました。

幸運その3

果たして「ぜひ、お会いしましょう」とのお返事が来たのは、ゲリingasさんの来日3週間前の6月頭でした。それを聞くまでの悶々とした日々は想像しただけでしょう。とにかくお迎えする私たちにとっての大プロジェクトが動き出しました。メンバーは、松本さんと国際チェロアンサンブル協会理事の柏木さん。それから私、上田とそのアンサンブルのメンバーと生徒の4名です。

会場をプロジェクトメンバーの一人のご実家の「西音寺」さんにお願いし、手作りの歓迎会にすることになりました。お寺から夕方の鐘つきを体験してもらおうとか、浴衣で出迎えるよとか、花火をしようとか、ホテルが出て来てくれたら最高だね!とか、まるで留学生を待つホストファミリーのようですが、せっかくプライベートの時間を割いて出かけて来てくださるのだから、日本の個人宅を味わっていただくという趣向はいかがと思いました。忙しくも楽しい

準備期間を経て、いよいよその日がやってきました。(その時のドキドキわくわく/夕夕夕は、ホステス役の笠雅子さんの筆におまかせすることに...)

実は当日は本当に夢の中の心地で、ほとんど実感がありませんでした。あとから写真をながめて、「ああ、楽しんでたんだね...」とゲリingasさんと夫妻のその表情から伝わって来て、しむじわと実感したようないです。それが一番の目的であったわけで、普段彼の演奏で楽しませてもらうだけの私たちが、自分たちの手で楽しんでもらうことができたなんて、こんな光栄なことはありません。こんな素晴らしい出会いと思い出をくださったゲリingasさんと夫妻と松本さんに、心からの感謝を送ります。ありがとうございました。

『ようこそ!そしてありがとう!』 ダヴィッドさん』

笠雅子

ケータイの受信メールに残っていました...
2006/6/5 10:50 「笠さんちへゲリingas招待するって、どう...?」 一見急なメールに見えますが、誰を、って世界のゲリingasをですよ!うちがお寺だからって冗談を...とこころがこれか実現してしまったのです。当日午前中から準備に取りかかっていすにもかかわらず、ゲリingasご夫妻の到着まで夕夕夕しており、全員の浴衣の着付けも終わらないまま、お出迎えとなってしまいました。食事会の前にまず本堂へ案内し、それから18時の梵鐘と一緒に撞きました。10回撞くのですが、そのうちご夫妻は2回ずつ撞かれました。さすが音楽家!梵鐘の中のをそいでみたり、前の音の余韻を確かめたりしながら真剣な表情で撞いていらっしゃいました。

食事会に入ると、言葉の問題もあり、私たちは妙に緊張してしまっていました。ただただ汗が溢れ出すばかりだったのですが、ダヴィッドさん(そう呼ばせていたいています)の方がさりげなく気遣って、場を和ませてくださっていすように思います。「良かった!」と言えば「ヨカク? ユカク(浴衣)?」、「黒霧(焼酎の黒霧鳥)」と言えば「ハラキリ(腹切)?」と試してみたり、私のネームプレートを見て、ロストロポーヴィチ氏と同じイニシャルだと言ってみたり...。また、松本さんの万歩計を手に取り、その手に指揮棒代わりの管を持ち、歌いながら軽快に管を振る...そして万歩計の「歩数」を確かめ(私たちを笑わせたり、と本当に楽しませてくださりました。モーツァルト生誕250周年の話が切っ掛けのときに(お隣に座っていた私に「ここ(このお寺)は約350年の歴史があるんだから、250年なんてまだまだ良いよ」とと頷いた顔でいらっしゃいましたが、私もとても印象的でした。

(けれど、何よりも印象的、というか大切な思い出となったのが、ダヴィッドさんとアンサンブルでできたこと。とても短いトリオの曲だったのですが、今まで言葉の問題にひっかりながら(松本さんが通訳をしてくださっていましたが)一緒に過ごしてきたかゆのように、アンサンブルをしていす時間はとても通じ合えたような、とても気持ちのいい時間でした。その前に、父がリクエストした曲をダヴィッドさんは優しく優しく弾いてくださり、父をうらやましく思っていました。やはり一緒にアンサンブルをさせてもらった喜びは格別でした。音楽は、チェロは、素晴らしいなあ、やっでよかつたなあ、と改めて感じる事ができたのでした。

ゲリingasご夫妻が帰られたあと、「あの数時間はほんじゃいよね」、「今までダヴィッドさんとタチャーナさん、ここ

に座ってたんだよね...「夢のよう」とは正にこのことでした。首席客演指揮者をつとめられている九州交響楽団の練習のあとでお疲れになつていてかと思いましたが、私たちの歓迎を快く受けてくださったダヴィッドさん、タチャーナさん、そしてお忙しい中を駆けつけてくださった松本さん、心より感謝しています。ありがとうございました。

ハッピー ゲリingas

『ゲリingasさん60歳記念パーティ参加報告』

松本巧

7月30日にクロンベルク・アカデミーとゲリingas先生ご自身から招待され、氏のお誕生日パーティに伺いました。

7月29日かダヴィッド・ゲリingas先生の60歳の誕生日。それをアカデミーが祝って全世界の彼の弟子を参集して午後から食事、先生出演のコンサート、弟子による余興コンサート、夕食会を開催しました。約60人ほどの弟子が集まりましたが、ヨーロッパ・アメリカの国立音楽大学の教授やオケのソロチェリストたちはばかりです。ちなみに昨年ミュンヘンのチェロコンクールで優勝し、日本でも活躍している「チョウ・チン」(ICCにも参加、7/29当日は欠席)や2002年チャイコフスキーコンクールで優勝した Johannes Moser氏など、現在若手の錚々たるチェリストたちはばかりです。午後のコンサートはゲリingas先生と奥様のタチャーナさんとでシュベールの「アルペジオーネソナタ」、ICCにも来られたシエンテロバスの「ゲリingas氏の誕生を祝う曲」をピアノクインテットとG氏のソロ、最後にショスタコヴィチのピアノソナタでした。弟子による余興コンサートでは、バガニョの「モーゼの主題による変奏曲」を二人で交代で弾き、次には「クマンの飛行」を「二人羽織」のように演奏。超絶技巧曲を一人が右手で弾き、もう一人が左手で指盤上を演奏することは想像以上に難しいものです。最後にG氏も加わってヴィラ・ロボスの「ブラジル風」ヴァルツ組曲第一番から「モディーナ」を約20人でアンサンブル。

その後、徒歩でクロンベルクの山の手にあるお城での夕食会にも参加しました。あいにこの雨でフランクフルトも一望できる庭でのパーティは取りやめとなりましたが、ドイツのパーティ料理に舌鼓を打ち、最後はチェロの絵のケーキにG氏が刀入り、当日の余韻をワインと酒でゆつりと味わっていただきました。ロストロポーヴィチ氏に10年師事されたG氏は次の世代のチェロ界を代表する存在としての昇格を十分に堪能する一日でした。

無伴奏

室内楽のよろこび

チェロアマイチ 山本彩子
「チェロカルテットやらない?」一通のメールをもらったことが、コングレス参加のきっかけでした。コングレスの内容も趣旨も知らないまま、松本さんの鶴の一声でカルテットが結成されたのです。密に降り立つと皆さんが笑顔で迎えてくれました。山と海に囲まれた、和やかな印象。

「みんなチェロが好きなんだなあ(会場入りして、変、参加者の方々の空気に圧倒されました。練習風景からも、それぞれのグループが丸となつていすことも分ります。チェロを中心に、チェロを通しての、体感、何かを作つて来た充実感...。全国から集まって来られたグループの「一丸」をひしひしと感じました。今回私たちが演奏したクレーゲルの「主題と変奏」は、とても親しみやすいメロディから成つています。おもしろい叙情に満ちたロマンティックな旋律、厚みのある音が響きと各声部の絡みごとが美しいと思います。同じ空間を共有した仲間、松本さん、角南さん、米川さんに、感謝です。貴重な経験をさせていだき、また大変なまでいすた。チェロを通して、多くの方々と交流が深まり、輪が広がっていすことを願っております。皆様のますますのご発展をお祈りします。

ロストロポーヴィチの誕生日に出席

松本巧事務局長が2007年3月26日(27日のクレムリンでのコンサート)と80歳誕生日パーティに出席することになりました。これはロストロポーヴィチ氏からの招待によるもので、プーチン大統領などの列席が予定されています。

ストライヴァリ「クレマチ」DVDのご案内

1000人のチェロ参加者で銀座の千木両郎の千木さんがDVDを製作・発売されました。世界が誇る数多の銘器を生み出したクレマチの歴史、文化、アマティ、ガルネリ、ストラディヴァリなど年表を通して銘器の「点・点」を照会した大変な力作です。税込3990円です。(問)ヤマハミュージックレーベル
株式会社 03-5664-1105もしくは直接千木さんへ03-3561-7653

